

第2回村上市立小・中学校望ましい教育環境整備検討委員会会議録

○ 日 時

平成26年12月25日（木）午後1時15分 開会

○ 場 所

村上市生涯学習推進センター2F 大・中会議室

○ 出席した者

吉川雄次	委員
大滝美世子	委員
三浦公平	委員
伊與部英子	委員
矢部常男	委員
伴田攻	委員
齋藤富一	委員
大嶋芳美	委員
佐藤憲一	委員
佐藤英和	委員
鈴木利文	委員
齋藤悠輔	委員
遠藤友春	委員
小柴柳一	委員
澤渡寿子	委員

○ 欠席した者

園部健	委員
佐藤康弘	委員
野澤重夫	委員
佐藤修一	委員

○ 出席した教育委員

鈴木信雄	委員長
佐藤信子	委員（職務代理者）
圓山文堯	委員（教育長）
信田榮太郎	委員
本囃元子	委員

○ 欠席した教育委員

なし

○ 出席した事務局職員

学校教育課長	板垣圭
管理主事	鈴木正美
指導主事	仙田健
指導主事	小川誠
学校教育課 教育総務室長	大滝寿
学校教育課 教育総務室	鈴木祐輔
荒川教育事務所長	信田和子
神林教育事務所長	瀬賀豪
山北教育事務所長	横山政信

○ 欠席した事務局職員

村上教育事務所長	大滝慈光
----------	------

○ 進 行

管理主事	鈴木正美
------	------

○ 書 記

学校教育課 教育総務室長	大滝寿
--------------	-----

○ 会議に付した議件等

- ・追加資料等について
- ・グループワーク
各自が考える望ましい教育環境整備について（選出区分毎4グループ）
- ・グループワークの内容発表
- ・次回委員会開催日程

・午後1時15分開会宣言

管理主事

定刻となりましたので、第2回村上市立小・中学校望ましい教育環境整備検討委員会を開催させていただきます。はじめに委員長ご挨拶

をお願いいたします。

・委員長あいさつ

吉川委員長

皆様こんにちは。先回は第1回の顔合わせとこの委員会に委託された内容についてお話を頂いたり、あるいは又教育委員会から模範的な国や県のこれまでの考えというか、そういう資料を頂いたり、また市内の小・中学校の現状について基本的なデータを頂いたり、それから皆さんから自由にご意見を頂いたということで、率直に話して話しづらいう形でないかとかですね、あるいはこういう資料が欲しいとか、その時点で考えられることを率直に述べてもらいました。第1回会議は有意義な会議であったと思います。秋ごろには国から新しい指針が示されるということで秋にと予定をしておいたわけですが、ご存知のとおりなんか、それどころではないような状況で、まだ国の方から何も示されていないようであります。そこで、教育委員会とも相談いたしまして、せっかく2回目は秋ごろにと予定していたわけですので、第1回にお話いただいたご意見、それから今回あの1回目のご要望に沿った形で教育委員会から大変詳細な資料を送っていただき、それから第1回の会議記録ですね、私もテープ起こしを、今テープなんか使っているかどうか分かりませんが、録音の文字化に何回も取り組んできましたけど、大変なんです。何回聞いても何言っているか分からないような、そういった、私もあまり発音が良くないので、どう文字化してよいか分からないような部分も含めて、それを文章に残すと、並大抵の、随分時間のかかる大変な仕事をなのですが、詳細に第1回目の記録を頂きました。これもありがたく思っております。それらに基づいて今日は、第2回目、国からいろいろな、ある線が示されないうちに、もっと自由な段階で皆さんからご意見を頂戴することが良いのではないかということでもたせていただきました。よろしくお願ひしたいと思います。で、あの、私は今日のためにちゃんと意見を書いてくるようにといわれて、教育委員会から事前の課題を頂いて、私なりにいろいろのことを考えるんですけども、なんせ川で鮭を採っているほうが楽しいもので後送り後送りとなつて、いろいろ考えるんですが単純に言うと、この村上市内の子どもたちが、まずその発達段階に夢を持てるか、という辺りはやはり根幹だと思います。いろいろな夢のレベルはあるでしょうけども、子どもなりにまず夢をしっかり持てる。それから、大雑把に言えばその夢の実現に向けた活動というか、取組

みというか、そういうことがその子どもの発達段階にできているか。大雑把に言えばそういう視点で村上市全体を見回して、私たちは検討していくことが基本的な姿勢だろうと、そんなふうに考えています。細かく言うと、学力だとか体力だとか、社会性だとか、美術だとか、道徳性だとか、まあ伝統芸能をこなす力とかいろいろな力はあるのでしょうけど、夢を持って、その夢の実現に向けて十分な活動ができているか、もしこれが違うところに住んでいけばなあ、なんていう事があったとしたら、その辺は大人の責任でいろいろ学校行事も含めてですけどいろいろな社会教育や地域社会やいろいろな意味で支えていかなければならない、支え方を考えていかなければならない。そんなふうに考えています。鮭が終わってかからなくなったものですから、今朝、川で考えてきました。今日は第2回目のそれなりの成果が出ますように、皆様率直なお話をいただけるよう、こう思っています。今日はよろしく願いいたします。

管理主事

ありがとうございました。

3番の日程について、私の方からご説明させていただきます。

まず、ご案内したとおり全体でこの会を2時間予定してございます。

3時15分頃までに終わる予定です。その中に、すでにお座りになってお分かりのようにグループワークを組ませていただきました。委員長のお話にもございましたように、1回目は非常に硬く話しづらい場の設定でございましたので、今回第2回目もまだ具体的な指針が出る前ということもあり、もともと、この望ましい教育環境について自由な視点でお話を交わす、そういう場にしたいとの意味合いを込めて、こういう場の設置にしてあります。ですから、ご自分のお立場で、自分なりの視点で思っていることを自由にお話いただければと思います。グループでのお話をさせていただく時間を約45分程度、その後それぞれのグループでこういうことが話題に出ましたという発表をしていただいて併せて75分の時間を取っております。

なお、グループの編成ですが、座ってお分かりのように、前のボードにも書いてありますが、地域の代表者として参加されている方はその立場で、PTAで参加されている方はその立場で、それぞれの立場でお話ができるようにさせていただいております。以上ですが、日程のほう、そしてこのグループの場の意図をご説明させていただきました。よろしく願いいたします。

それでは本日お配りしました追加資料等についてご説明いたします。

学校教育課長

ご苦勞様でございます。学校教育課長の板垣です。道足の悪いところ御出でいただきましてありがとうございました。

それでは次第の4番の追加資料等について若干ご説明させていただきます。今、吉川委員長よりお話がありましたように、前回7月28日に第1回の委員会を開催させていただきました。その時にも申し上げましたが、国ではこの秋を目途に約60年ぶりに学校統廃合の指針を出すとの情報がありました。マスコミにもそのような報道がされました。しかし、今現在、その指針となるものが私どもに示されてはおりません。その指針を確認しながらと第1回目の確認事項でありましたが、それがなかなかできずに今現在に至っているわけですが、今回、ほぼそういった流れでいくのではないかと思われる資料を今回5つほど、それから資料ナンバーのついていない資料も含め6枚ほどお配りさせていただきました。

その前に、前回、第1回の委員会でご希望のありました資料についても10月の初めくらいに第1回目の会議録とともに中等教育学校のほうに入学している生徒の数についても18年19年を含めた形で、皆様のお手元に送付させていただきました。毎年約50～60名近い生徒が中等教育学校へ入学している結果になっております。

それから、合併後の各学校の児童生徒の数、学級数もあればということで、一枚ものにまとめることができませんでしたので、私どもが持っている資料を平成20年度から平成26年度最新の部分までを送らせていただきました。

今日のお手元にあります資料の1から5と資料ナンバーのついていないものにつきまして若干ご説明申し上げます。

国からの指針はまだ示されておられません。ただし、推測されますような報道等が出ておりますので、内外教育という冊子の記事から、皆様に知っておいていただきたいとの事からお示しをさせていただきました。資料の1でございますが9月26日に出された内外教育に記載されたものでございます。文科省につきましては2015年予算の概算要求において公立小中学校の統合を積極的に進めるということから支援をしていくと書かれてあります。支援を手厚くして小規模校同士の統廃合を促すということが示されておりました。次に資料2でございますが、統廃合に関することでございます。約60年前に出された指針の流れがこの資料2に書かれております。冒頭には、このところ学校統廃合の指針の見直しが教育課題として浮上している、というような書き出しから始まっています。今までの文科省から出された指針について

中段付近に書かれておりますが 1956 年の通達、これが基本になっていますが、これらのこと経緯も書かれております。最終的な締めとして、構造的な少子高齢化の中で児童生徒は減り続けており、学校の統廃合は避けて通れない状況にあり、文科省の新しいガイドラインが注目を集めている。という記事でございます。これが 10 月 24 日に出されたものです。秋になっているのですが、まだこういった書き出しの状態でした。

次の A3 のものでございますが、資料 3 でございます。これは 11 月 14 日に出されたものです。中央審議会の部会の中で、小中一貫教育の制度化を国に答申する予定だとの記事です。文科省はそれを受けて来年の通常国会に関連法案を提出を目指すということが、書いております。どのような一貫校なのかというと、基本形が 2 つほど答申されるようです。まず、一つの学校において一人の校長先生のもとで 9 年間を一貫した教育課程を編成する、まだ仮称でございますが、小中一貫教育学校という学校の校種を受け付けるような流れです。それから、多様な事例を踏まえて、それぞれ独立した小学校と中学校が小中一貫教育学校に準じた形で取り組む、小中一貫型の小学校、中学校も制度化しようかとの答申になっているようです。それらのものについては、それぞれメリット、デメリットもあるのですが、左側の表の中で書かれております。これらのことについても、動きが出てくるのではないかと考えております。早ければ 2016 年から教育委員会の判断で設置できるような形になるのではないかと広報ではされております。ただ、義務付けたりそれから既存の小中学校を廃止したりではなく、導入は各市町村の自主性に委ねられるという様な事も記載されております。

少し長いのですが、後ほどお読みになっていただければと思います。

それから資料の 4 と 5 でございますが、日本の状況をお示したものです。全体の公立学校の規模の推移です。昭和 33 年から平成 25 年の資料ですが学校統廃合によって 5 学級以下の小規模校は減少傾向にあるということが、見出しの次に書いてあります。ご覧になっていただければと思います。それから一学級数あたりの児童生徒数の比較がありますが、参考につけさせていただきました。

それから、もう一枚、上のところに新潟県とゴム印を押したものをプリントしておきました。つい最近私どもに届いたものであります。あくまでも新潟県だけのものです。これを見ていただきましても、児童生徒の減少はありありかなと、右肩下がりということになります。

平成6年から平成26年の20年間に小学校ですと60,759、6万人強の生徒が減少しております。それから、中学校は緑色の部分ですが約3,350人の20年間で減少の数字ということです。右肩下がりというのは当村上市と同じなのかなと思っております。それから、その下ですが学校の規模別の数字です。小規模校、中規模校、大規模校の色分けをしたものです。これらについても新潟県の現状ということで確認していただければありがたいと思います。今日皆様に提示した資料は以上でございます。先ほどから申し上げておりますように国のハッキリとした指針が出ない中での会議でございますが、現在の皆様の考え方の確認を含めて、今日こういった場の設定をさせていただきました。よろしくお願いいたします。

管理主事

それでは5番グループワークに入りたいと思います。事務局のほうで司会と記録を行います。それぞれのグループに入っていただきたいと思います。なお、グループによっては欠席の方がいらっしゃって話しにくい距離感を持っているところもございますので、ご自由に席の移動をお願いします。なお、時間は45分を取りたいと思いますので、ラスト5分になりましたら私のほうで声がけをします。終わりに向けた話に進めていただきたいと思います。

最後ですが、オブザーバー的に教育委員の皆様も脇のほうでお話を聞かせていただくことで回らせていただきますのでお許しいただきたいと思います。それでははじめたいと思います。ではお願いします。

- ・グループワーク

(選出区分毎に4グループに分けて意見交換を行う)

- ・グループワークの内容発表

管理主事

それでは時間になりましたので、これでグループワークを終了させていただきます。

45分強の時間、様々な事について望ましい環境に関わるお話があったかと思います。全てを網羅できるわけではありませんが、それぞれのグループでこのようなお話があったと5分程度で発表をお願いいたします。一番前のグループからお願いいたします。

教育総務室鈴木主査 第1グループで出た意見について、順番に述べさせていただきます。

まず、一人目委員さんのご意見といたしましては、小中学校の生徒数のみでの統廃合の判断には問題があるとのことでした。また、小学校までは地域にあったほうが良いとの意見もございました。それに対しましてグループの中ではそう言った意見も大切であるとの意見もございましたし、またそういう環境にあっても、今の時代にあった新しいスタイルの中での新たな子育ての仕方が求められているんじゃないかとの意見もいただきました。

次に二人目の委員さんのご意見です。統廃合の問題とか、こういった委員会が発足し活動しているといった情報を地域にフィードバックさせなければいけないのではないだろうかとの意見をいただきました。どこまで広げるかという話もあるが、PTAとか地域の団体等にある程度情報を流して心の準備をしていただくのも、今後上手く進める上では必要ではないかとの意見もいただきました。それに対しましてグループの中からも、いろいろな団体の中で今ここで進めているお話が話題となるのが望ましいのではないかとの意見がございました。また、まだ2回目の会議なので今後議論が盛り上がることに期待したいとの意見もございました。

三人目の委員さんのお話です。前回の第1回目の会議資料であったのですが、ある程度の集団がないと学習とかに影響するのではないかとのことをおっしゃられていました。前回の資料で県の資料が良くまとまっているとおっしゃられておりました。あまり小規模だと競争もないので集団の中に入っていけないことや、先生方の競争も生まれないので、ある程度の人数は必要ではないかのご意見をいただきました。

四人目の委員さんのご意見です。ある地区の小学校、保育園の保護者とお話し合いをした感想から、一クラス20人から29人くらいの生徒数が望ましいのではないか、複式は解消すべきではないか、教員の子供たちとのふれあいを多くすべきではないか、ちょっと困った親に対しては毅然とした態度で対応して欲しいとか、地域を愛する心を育てる、それが後々この市に帰ってくる子どもを育てることに繋がっているのではないかのご意見をいただきました。

最後の委員さんのご意見です。ある程度少人数での教育効果はあるんですけども、それが大きな人数になると失われるかというところでもない。クラス作りによっては、少人数での効果も生かすことができるんじゃないかとのことも含めまして、ある程度の集団の中での教育というのは人との関係が生まれるとのことで、すばらしい経験ができる

とのご意見、集団にとってもその個人にとっても活性化が図られる。レベルアップに繋がるので良いのではないかとのご意見をいただきました。それから小中の統廃合に関しては、地域住民同士がたくさん交流してなおかつ協力して授業を育成し続けていくぞという環境であれば、この委員会の内容についても理解を受けることは十分可能ではないかと思われましてということです。あと財政的な面とか、ハードソフトの面とかいろいろありますけどもそう言ったお話がありました。少しまとまっていませんけれども第一グループの報告を終わります。

管理主事

ありがとうございました。では、第2グループお願いします。
マイクをお願いします。

山北教育事務所長

はい、それでは第2グループです。地域住民代表者と言うことで4人の方にお話をさせていただきました。その中で出された意見ですが、一つとして小中学校の生徒が減少している。このような現状の中で、複式は望ましくないの、国の方針はまだ出されていないが、村上市独自のものを作るべきだ。その場合には「地域のつながりというものを十分考慮してほしい。」という意見がありました。それからもう一つは、神林地区のことですが、合併前の平成19年に統合に関する答申書を出した。それが新市に引き継がれているが、教育長も退職するなどして何ら進んでいない。と言うことで、そちらも尊重していただきたい。と言うことでした。

それから、小規模校のデメリットと言うことで、生徒が減少している中で統合は必要なものだ。刺激が非常に少ないので、小さな枠の中で教育することは非常にデメリットがある。今交流している現状についてお話がありました。山北地区のことですが、新潟市の生徒と交流会をしている。大規模校の生徒はどんどん質問してくる。どんどん入ってくる。小規模校、山北地区ですが、そちらの学校では自分たちでチマチマとまとまっている。そういうことで、大規模校のメリットはあるのかな。というような意見がありました。

それから、大規模校になることによって熱心な先生が来てくれるということで、子どもたちにとっても望ましい環境ではないか。という意見が出されました。

あと、予算に関する意見ですが、教育予算を考えると抜本的な措置を講じてほしい、例えば柔道なら山北、サッカーなら村上、あと外部指導者を入れるなど、そういうことで子どもたちの能力を伸ばす

ような予算措置をしてほしい。あと、洋上発電も予定されるということで、人口が増える見込みもあるので質の高い教育、文化の形成も考慮してほしい。あと、統合して廃校となった施設は有効活用してほしい。今はあまり有効活用されていないという現状とのことです。それからスクールバスもきめ細かな対応をしてほしいとのことです。傷害、暴行など見られるが安全安心の確保を図ってほしい。開かれた学校にしてほしい。統合するにしても、いきなり決定事項を示すのではなく地域とよく話し合って慎重にしてほしい。という意見もありました。以上であります。

管理主事

ありがとうございました。では、第3グループお願いします。

教育総務室長

第3グループです。PTAの代表者の方たちのグループです。今回二人ほど欠席されていますので、3名で話し合いを行いました。最初は山北のPTAの代表者の方からなのですが、自分が思うに小学校以前の教育についてということで、少し触れたいとのことでした。朝日地区の場合、昔、文化会館で全ての保育園で芸術鑑賞事業というのがあり、子どもたちの交流が図られていたが、今は実施されてなく、そのような動きがあっても良いのではないかということです。小学校も広域になっているために、入学以前に保護者も顔見知りができなく、保護者が知り合いとなることで良い環境作りが出来上がるのではないかと思うという意見。それから、学校にPTAがあるにもかかわらず、なかなかその活用が図られていないのではないかということです。もっと働きかけをするように思っているとのことでした。

次に朝日地区のPTA代表者の方からは、このような社会状況の中では統廃合は必ずあると思う。但し統廃合となるその時に親としてどのように関わりをもつかが大事だと思うとの意見です。朝日地区から見るとどうしても村上地区を中心に動いてきたように思うため、町場と農村部と同じ立場で共存できるような考えで親としても考えなければならぬと思う。もし、統廃合となった場合はバス通学を考えなければならぬが、その時は距離とか時間とかの問題が気になっている。統合ということにPTAとして考えを持つようにしていかなければならないという意見でした。

それから、村上地区のPTAの代表者の方からの意見ですが、個人的な意見としてという前置きなのですが、自分の地域は上海府小学校の地域なので、統廃合の関係に絞って考えてきましたとのことで、個人

的には親としては大勢の中で学ばせたい。ただ、地域の中に学校がなくなるのは淋しいということ。統廃合は仕方ないけれども、今の状況では地域としても話し合いをしていかなければいけないと思います、とのことでした。区長会では残してもらいたいとの意見もあるが、保護者としては統廃合をどうしても考えてしまう。また、実感としては、今までそこまで真剣に考えてはいなかったけれども、これからは考えていかなければならないと思ったとのことでした。

3名での話し合いでしたので、それぞれの発表が終わってしまいましたのでフリーに話をしてもらったのですが、上海府の統廃合のお話は以前もあったとのこと、これからは規模が小さくなっていくわけなので、地域住民は普通だった学校を残してほしいというのは分かるのですが、一番重要なのは子どもたちがどのような環境、いわゆる人数で捉えた場合でも、どのような環境で学べるかが大事なんだということで、複式学級でも残すことにメリットがあるのか、メリットデメリットで考えるということをお話しております。世の中に出るには競争社会で学ばせたいというような考えもある。バス通学で地域に子どもの顔が見えなくなったとの印象もある。学校と地域の関わりがなくなった。学校が立地しているところにはまだあるが、遠距離の地域にはなかなか学校との関わりが薄くなっているように感じる。子ども達には人数があった方が良いのではないかとの感じがする。上海府小学校の場合、複式であるがゆえに学力は勝っているが、それは複式は児童のペースに合わせて授業ができるというメリットはあるのだが、複式は小さなところでは良いのだが、大きなところでは交流下手だとかが多いのではないかと思う。学校間での交流会は大切だと思っている。子ども同士の交流とともに保護者同士の交流もあってもいいのではないか。近所になかなか同じような家庭がない。子どもも親も同じなので、今の社会情勢では、地域に国際結婚の状況もあり、親同士のそういう場も必要になっている。今の時代なので親同士も LINE（ライン）で情報が入り、親同士の関係も難しい時代になっている。統合をもしするならば、準備期間を置いて、子どもたちの交流する場、機会を十分作ってもらいたい等の意見が出され終わっております。

管理主事

では最後ですが、第4グループお願いします。

仙田指導主事

はい、第4グループです。学校関係者と公募の委員の方のご意見として3名の方のご意見をもとに話を進めました。

まず、話題としては3人とも統廃合は必要であろうとのことで、確認しています。その、いろいろな根拠の中で、例えば学習指導の面で今は、話し合いによる学びというのが主流になっているが、その話し合いが活発になったり、集団で活動ができたり、ということを考えると、小学校の場合はクラス20人以上は必要であろうと、それからまた生活面においても人間関係の固定化ということを考えると、できれば学年2学級以上あることが望ましいのではないかと、少なくとも複式の解消は必要である、との意見がありました。

また、保護者の立場から、卒業生の立場として母校がなくなってしまうのは淋しいのだけれども、それよりもむしろ、自分の子供がたくさん友達と交流して学校生活が送れるということの方が価値があるから、そういった方向が望ましいのではないかと意見がありました。

中学校の話では、1学級が減ると教員の数が2人減るケースがあるわけで、そうすると教科が1人しかいないとか、免許外の教員が増えるとかいったようなこともあります。その他、部活動も生徒の数が少なくて成立しにくくなっている状況もあるというご意見もありました。

そういったことで、統廃合の方向で考えていくんだけど、統廃合に当たってどういったことに配慮していけば良いのかということについても、いろいろご意見がございました。

一つは地域の理解をどう得ていくかということで、それには近隣の学校同士の交流を密にしていくということで、それで生徒が変わるその姿を見て、保護者や地域の人に、広く交流していく事は良い事なんだなと気付かせることが必要ではないかということでした。その他、文化祭等を地域も楽しめる場としてやっていく、学校がどのような活動をしているか広めていく、そういったことで地域の理解を広めていくことが大切であるということでした。

また、統廃合後の学校の管理運営が非常に重要なポイントになるというご意見がございました。基本的には、教職員の授業力をいかにして上げるか、地域内の中学校同士が連携し合って合同で運動会とか文化祭とか、その枠にとらわれない学習成果の発表会のようなものをどんどんと企画していく、しかも、地域や公民館とタイアップしてやっていく事も必要であろうということでありました。

その他、統廃合に当たって阿賀野市の例も上がり、複式の解消はまず第1段階、そして第2段階として6学級同士の学校の併合という事もあるようですが、統廃合は見通しを持たないと何回も何回もやることになってしまうので、見通しを持つことは大切であるという意見、

それから、小中一貫校今回資料にも載っていますが、そういったことも視野に入れていく必要があるだろうというご意見がありました。保育園とも連携をしていく必要があるという事で、福祉課とも一緒に話をしていくことが必要であろうとのご意見、さらに、少し大きいのですが、この地域がどのようにして生き残っていくのか、どのようにして活性化を図っていくのかという、大きな視点、そこから統廃合の事を見ていく事も大切ではないかとのご意見をいただきました。以上であります。

管理主事

はい、大変ありがとうございました。若干時間がございますので、今4つのグループからそれぞれ報告がございましたけれども、それに関連した事でご質問や付け加えをして意見を述べたい委員さんがいましたら挙手をお願いいたします。

(挙手なし)

では、しばらく待つてないようでありますので、グループワーク大変ありがとうございました。報告にありましたように様々な視点でそれぞれの委員さんの思いが述べられていたのではないかと、報告を聞いて思いました。

それでは、7番のその他へまいりたいと思いますが・・・。

学校教育課長

事務局は特にありません。

管理主事

特にないようでありますので、8番次回委員会の開催日程について学校教育課長よりお話があります。

学校教育課長

ご苦労様でした。大変ありがとうございました。同じ1時間弱であっても4倍の密度があったのではないかと感じております。様々な委員の皆様のご意見を拝聴しました。後でまとめをさせていただいて、今後の委員会の糧にさせていただきたいと思っております。

それでは、次回委員会の開催予定であります。冒頭から出ておりますが、国の指針がまだ示されておられません。この時期において、まだ出されていないため、いつ出されるかは見通すことのできない状況ではあります。第1回7月28日にお示しをしまして今後検討される事項を確認しておりますので、それらの事について、国の指針が出なくてもそれらのことのできることを確認していきたいと考えているところでございます。そこで時期でございますが、3月議会が2月の後半

から3月の中旬くらいまでございますが、その時期を避けたいと思います。私どもの都合ではありますが、その時期を外した時期で吉川委員長さんと相談しながら日程調整をさせていただきたいと思っております。早めに皆様にはお知らせしたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。日程的にはそのような時期という事でご理解をいただきたいと思っております。

管理主事

では、今日程の方を課長からお話がありましたが、次回の内容について吉川委員長さん、概略何かお話ありますでしょうか。

吉川委員長

ええ、それぞれのグループの項目をお聞きしますと、だいたい考えられるところは、皆さんの方でも随分詳しく考えていただいたなあと、こう思っています。特にあの、共通するのがあちこちでありまして、例えば、最後の報告で出てきた、教職員の指導力の問題なんかはこのグループでも、例えば中学校の理科と言っても、科学的な内容、生物、物理、地学、それぞれ理科の先生も得意不得意がありますよね、そういう指導力のバランスの関係で、受験の学力は別として、本当の科学の面白さを紹介された生徒と、ただ受験にこれ出るとぞ知識をいっぱいにされて進学した生徒では、将来大きな違いが生まれてくるのではないかといった話題がこのグループでは出ました。それから、学校教育以外の、例えばフィギュアスケートとか、音楽芸能とか、ちょっと学校教育では追いつかないようなものが、他の地域では非常に機会に恵まれて、オリンピックや世界に繋がっていったような例もたくさん見られる。この地域も平野君がおりましたが、例えばそういうような学校教育以外の教育機会、子どもの能力を伸ばす機会、そういうものが学校教育の規模だとか質だとかを検討する以前に、この市内に十分、適切に考えられているか。民間も含めて大事だと私らは話しました。まあそれはそれとして、そういう弱さがあったとしたら、統合の問題の外でもう一回いろいろ考えていかなければならないとか、まあ周辺の問題はいっぱいありますけど、だいたい考えられた内容は出てきているようでありますので、今回は、少し学校ということに絞ってその今の子供たちの学力実態だとか体力だとか、そういったものを見ながら市内の各学校の規模等について少し話を詰めた形で、また自由に心配なこと、必要なこと等を皆さんから出していただくのが、回りの委員会の内容になるかなと思っております。いかがでしょうか。ここでこうだと絞りきれない内容もあるわけですので。小規模校のメリットデ

メリットのあたりでは、県の資料に詳細にまとめてあります。私自身もそういった立場で学校で仕事をしたことがありますし、複式学級は最高の教育だなんて、30代に国立の学校で発表した事もあります。今の筑波大の付属の学校で5・6年生の歴史の授業を持って行って、これは複式学級じゃないとできないんだと全国の学校の大会で発表した事もあるくらい複式教育そのものは意義を感じているが、メリットデメリットがはっきり出ていますので、そのようなところも読みながら検討いただきたい、次回に備えていただきたいと思います。鈴木さん良いでしょうか。大変漠然とした方向付けですが、望ましい、やや学校に絞った学校教育環境ということに絞って話を進めたいと思っております。よろしく申し上げます。

管理主事

ありがとうございました。では、最後になりますが閉会のご挨拶を副委員長さんよろしく申し上げます。

副委員長

皆さん長い間ご協議いただきまして本当にありがとうございました。当初7月ですか、事務局の方から想定される事項についてとして5項目位あげられておられましたけれども、こうしたことについても今日皆さんで全部触れられていたのではないかという気がします。また、グループ分けでそれぞれやっぱりそれぞれの専門分野で意見が出やすかったのではないかと思います。これを、こう一つのきっかけとしまして会議そのものが、盛んに活発な議論がされていくと期待しております。以上でございます。今日は本当にありがとうございました。

管理主事

ありがとうございました。これを持ちまして閉会とさせていただきます。

15時15分 終了